

平成30事業年度

自 平成30年4月 1日

至 平成31年3月31日

事業報告書

一般社団法人 日本木材輸出振興協会

目次

第1 事業の概要

- 1 木材輸出状況について..... 1
- 2 木材製品輸出特別支援事業（うち、日本産木材製品のブランド化と台湾・ベトナムにおける販売促進）..... 2
- 3 木材製品輸出特別支援事業（うち、EU等に対するデザイン性の高い木製家具・建具等の輸出促進）..... 6
- 4 高付加価値木材製品輸出促進事業（うち、企業連携型木材製品輸出促進モデル事業）..... 9
- 5 高付加価値木材製品輸出促進事業（うち、日本産木材・木材製品の普及・PR事業）..... 11
- 6 農林水産物・食品輸出促進対策事業（うち、品目等のオールジャパンでの輸出促進支援）..... 12

第2 総務に関する事項

- 1 理事会について..... 14
- 2 定時総会について..... 14

第1 事業の概要

1 木材輸出状況について

我が国の木材輸出は平成25年（123億円）からの増加傾向を維持し、平成30年の木材輸出額は前年比7.4%増の351億円にのぼり、41年ぶりに350億円を超えた。

国別では、中国が前年の145億円から159億円（伸び率9.3%、シェア45.3%）、フィリピンが74億円から79億円（同7.5%、同22.7%）、米国が19億円から25億円（同32.2%、同7.1%）、台湾が16億円から20億円（同21.1%、同5.7%）へと増加した。これらの4カ国・地域計で全体の81%を占めている。一方、韓国が昨年の37億円から32億円へと12.6%減少し、シェアも11.3%から9.2%へと低下した。

主な品目別では、丸太が前年の137億円から148億円（伸び率8.2%、シェア42.2%）、製材品が57億円から65億円（同12.5%、同18.4%）、合板等が63億円から72億円（同13.6%、同20.4%）へと増加しており、この上位3品目で全体の81.0%を占めている。

特に、中国の旺盛な木材需要により、丸太輸出が大幅に増加した。また、米国における住宅フェンス用材の需要により、米スギの代替品としてスギ製材品の輸出が増加した。

また、木製家具の輸出額は前年比8.9%増の27億円にのぼり、うち中国向け6億円（伸び率61.9%、シェア21.5%）、台湾向け3億円強（同-0.1%、同12.1%）、香港向け3億円弱（同9.6%、同10.3%）となっている。腰掛け（木製フレーム）の輸出額は前年比18.3%増の17億円にのぼり、うち韓国、中国、オランダ、香港向けのシェアはそれぞれ15.9%、14.1%、12.4%、10.9%を占めている。

当協会は、農林水産物・食品の輸出額を平成31年までに1兆円水準とする政府目標の達成に向け国産材輸出促進の取りまとめ団体になっており、「林産物の輸出戦略」で木材輸出の重点対象国・地域とされる中国、韓国、台湾に加え、有望とされる新たな輸出先としてのベトナム、インド、EU諸国、米国等において、木材産地・事業者及び関連業界団体・機関とタイアップして、以下の事業に取り組んだ。

2 木材製品輸出特別支援事業（うち、日本産木材製品のブランド化と台湾・ベトナムにおける販売促進）

日本の木材加工技術を活かした付加価値の高い木材製品の輸出拡大を図るため、平成 29 年度農林水産省補助事業（補正）により、以下の事業活動を実施した。

（1）中国「木構造設計手引」の作成

① 中国の「木構造設計手引」改編提案参画のための事前調整

中国の「木構造設計標準」にスギ、ヒノキ、カラマツ及び木造軸組構造住宅が位置づけられ、平成 30 年 8 月 1 日に施行された。具体的な建築に当たっては、さらに設計・施工向けの技術情報が必要であることから、中国の「木構造設計手引」改編作業に参画し、日本側の提案に係る協議についての事前調整を行った。

② 「木構造設計手引」改編委員会への参画及び提案・協議活動

日本側の提案内容に係る協議活動は、以下のとおり 2 回実施した。

第 1 回目：平成 30 年 9 月 5 日、北京

- ・ 「木構造設計手引」改編向け日本側提案について
- ・ 「木造軸組構造 ～設計と構造～」の作成状況等について
- ・ 「木構造設計手引」改編の進捗状況と今後の予定について

第 2 回目：平成 31 年 2 月 21 日～22 日、成都

- ・ 日本側提案の内容確認について
- ・ 「木造軸組構造 ～設計と構造～」の内容確認について

③ 「日本木構造技術研修会」の開催・運営

開催日時：平成 30 年 10 月 27 日（土） 9:30～17:30

会 場：南京林業大学

- 主要内容：・ 日本産木材を用いた構造材料と設計強度
- ・ 木造軸組構法の主要部材と構造仕様
 - ・ 木造軸組構造の接合方法と金物工法
 - ・ 木造軸組構法の耐久性設計と耐久性部材

- ・ 中層・大規模木造建築
- ・ 中国における木造軸組建築の設計・施工事例

参加者数：現地関係者等 126 名

(2) 日本産木材製品展示施設における展示・PR、情報収集・提供

① ジャパンウッドステーション（ホーチミン、台北）での展示・PR

ジャパンウッドステーション・ホーチミン（JWS HCM）、ジャパンウッドステーション・台北（JWS TP）を活用して、以下のとおり、日本産木材製品の展示・PR を主とするプロモーション活動を行い、ベトナム市場、台湾市場における日本産木材製品の認知度向上、販売促進に努めた。

- 来訪者への対応、展示製品等の説明
- 現地業者への訪問販促（現地の関係業者を訪問し、展示製品等の紹介や意見交換）
- 日本、ベトナム・台湾関係業者等向けの相談、仲介活動
- 輸出に取り組む企業や地方公共団体による展示施設を活用したプロモーション活動、商談活動を支援
- 「BIFA WOODMAC VIETNAM 2018」への開催概要及び出展状況

{	吉野町、奈良県及び愛媛県産材製品市場開拓協議会と	}
	JWS HCM との共同出展	

② 「日本産木材製品利用セミナー」の開催・運営

以下のとおりベトナム、台湾で各 1 回開催した。

（ベトナムでの開催）

開催日時：平成 30 年 10 月 26 日（金） 13:30～16:30

会 場：ホーチミン市内

主要内容：・日本の木材資源と木材利用

- ・ 家具及び住宅への木材利用
- ・ 日本の木造軸組構法の構造と特徴
- ・ 愛媛県産スギ・ヒノキを活用した木造建築の事例

参加者数：現地関係者等 30 名

(台湾での開催)

開催日時：平成 30 年 12 月 13 日（木） 13:30～17:00

会 場：台北市内

主要内容：・日本の木材加工製品のいいね
・内装仕上げ用高性能ツキ板とその利用事例
・日本の木材ヒノキを使ったブランドの事例紹介
・エステックウッドの特徴と施工事例
・藍染建材及び木造大型建築の事例

参加者数：現地関係者等 51 名

③ 市場情報の収集・提供

以下のとおり市場情報を収集、分析・編集した後、輸出に取り組む事業者等にメール送付又はウェブサイトへの掲載による情報の提供に努めた。

- 台湾における 2017 年主要木材製品供給概況
- 台湾の 2018 年上半期の木材製品輸入実績
- 台湾の景観造園における木材の使用
- 台湾における木構造の発展の現状
- 台湾における木質パネル内装利用状況
- ベトナムにおける木材産業関係団体の概要
- ベトナムからアメリカへの合板輸出の増大
- ベトナムの家具業界における原材料調達の課題

④ 広報媒体を通じた PR

ヒノキ、スギの利用等に係るカラー広告、企画記事をベトナム、台湾の現地専門誌へ各 2 回掲載し、日本産木材製品の PR に努めた。

(3) バイヤー招聘、セミナー・商談会の開催

① バイヤーの招聘

台湾バイヤー、ベトナムバイヤーをそれぞれ 4 名招聘し、製材品や内装材

等製造現場や産地（徳島、東京周辺；大分、熊本）への案内、製品の説明、現場視察、業界関係者との意見交換を実施することにより、産地等 PR を行った。

② 「日本木材製品輸出促進セミナー」の開催・運営

台湾バイヤー、ベトナムバイヤーを講師としたセミナーを下記の要領でそれぞれ開催し、国内企業等への情報提供、販売開拓につながる商機作りやパートナー関係の構築に努めた。

（台湾向け日本産木材製品輸出促進セミナー）

開催日時：平成 30 年 10 月 18 日（木） 14:00～17:30

会 場：東京都内

主要内容：・台湾の木材輸入の状況

- ・台湾におけるスギ・ヒノキの利用可能性
- ・台湾の建築における木材利用の現状
- ・台湾における木材の消費ニーズ

参加者数：国内関係者等 73 名

（ベトナム向け日本産木材製品輸出促進セミナー）

開催日時：平成 30 年 12 月 6 日（木） 14:00～17:30

会 場：大分市内

主要内容：・ベトナムにおける木造建築

- ・ベトナムにおけるヒノキ製品の事例と見通し
- ・ベトナムにおける家具産業の状況
- ・ベトナムにおける木材の消費ニーズ

参加者数：国内関係者等 32 名

③ マッチング商談会の開催の取組

台湾、ベトナムのバイヤーの招聘期間中に下記の要領でそれぞれ開催した。

（日台木材商談会）

開催日時：平成 30 年 10 月 18 日（木） 9:00～15:30

会 場：東京都内

参加企業：日本側企業 8 社 台湾企業 4 社 商談延べ回数 30

(日越木材商談会)

開催日時：平成 30 年 12 月 6 日 (木) 9:00～12:30

会 場：大分市内

参加企業：日本側企業 5 社 ベトナム企業 4 社 商談延べ回数 20

3 木材製品輸出特別支援事業(うち、EU 等に対するデザイン性の高い木製家具・建具等の輸出促進)

日本の木材加工技術を活かした付加価値の高い木材製品の輸出拡大と、新たな輸出先国向けの販路開拓を図るため、平成 29 年度農林水産省補助事業(補正)により、以下の事業活動を実施した。

(1) 木材利用状況調査

① EU 等木材製品輸出のポテンシャル調査

EU 等向け木材輸出のポテンシャル分析の視点から、フランス、英国、オランダの家具・建具等木材製品加工企業、販売現場等に対する現地調査や関係業界団体、流通業者へのヒヤリング調査をそれぞれ実施した。これらの調査では、これまで収集、蓄積した情報を確認するとともに、3カ国の木材産業の現状、流通経路、利用ニーズ、消費傾向に対する認識等を把握・分析し、EU における木製家具・建具等木材製品の輸出ポテンシャルを提示するとともに、輸出にあたっての主な課題を明らかにし、課題解消のための対応策を示唆した。

② 報告会の開催・運営

「欧州、アジア向け木材製品輸出促進セミナー ～現地調査に基づく家具・建具等輸出の展望～」として、下記の調査報告会を開催した。

開催日時：平成 31 年 3 月 20 日 (水) 9:30～12:00

会 場：東京都内

主要内容：・欧州・アジアにおける新たな木材製品輸出先の開拓について及び「Salon Raisonance」（ストラスブール）への出展の概要

- ・ 欧州における家具・建具等木材製品輸出のポテンシャル
- ・ シンガポール・香港における日本産木材製品輸出のポテンシャル
- ・ 海外向け家具輸出の取組

参加者数：国内関係者等 38 名

(2) 日本文化の紹介行事や展示施設における日本産木材製品の展示・PR 及びセミナーの開催

① パリ日本文化会館等における展示・PR

日仏友好 160 周年の記念活動の一つとして、独立行政法人国際交流基金により平成 30 年 7 月から 31 年 2 月まで、フランス国内で日本文化を紹介する「ジャポニスム 2018」が開催されたところ、本協会は、フランス北東部のストラスブールで開催された工芸見本市「Salon Raisonance」に、日本企業とタイアップした「ジャパンパビリオン」を出展し、品質・付加価値の高い木製家具・建具等の木材製品を展示・PR することにより、日本産木材製品の認知度向上と EU 向けの輸出促進に努めた。

出展概要は以下のとおり。

出展期間：平成 30 年 11 月 9 日（金）～11 月 12 日（月）

会 場：ストラスブール（フランス）

出展者数：13 社

出展品目：木製家具、木製建具、工芸品ほか

出展規模：65 ㎡（標準コマ約 7 コマ相当）

② 「日本木製家具・建具セミナー」の開催・運営

上記の出展に合わせて、以下の概要で開催した。

開催日時：平成 30 年 11 月 9 日（金） 13:00～16:30

会 場：「Salon Raisonance」会場内会議スペース

主要内容：・日本の木材資源と活用

- ・「和」の美しさを伝える日本の組子細工
- ・ジャパンプルーと木製品の美
- ・日本の木 ～その種類と使い方～

参加者数：現地関係者等 100 名超

(3) バイヤー招聘、商談会の開催

① バイヤーの招聘

EU（フランス等）バイヤー及びアジア（韓国、中国、台湾）バイヤーをそれぞれ4名招聘し、製材品、内装材等製造現場や産地（岐阜、名古屋周辺；徳島、東京周辺）への案内、製品の説明、現場視察、業界関係者との意見交換を実施することにより、産地等のPRを行った。

② 商談会の開催・運営

アジアのバイヤーの招聘期間中に下記の要領でそれぞれ開催した。

開催日時：平成30年11月15日（木） 13:30～17:30

会 場：東京都内

参加企業：日本側企業6社 海外企業4社 商談延べ回数19

③ 「EU等向け日本木製家具・建具輸出促進セミナー」の開催・運営

EUバイヤーを講師としたセミナーを下記の要領で開催し、国内企業等への情報提供、販売開拓につながる商機作りやパートナー関係の構築に努めた。

開催日時：平成31年2月8日（金） 14:00～18:00

会 場：名古屋市内

主要内容：・ストラスブールにおける手工芸品の状況と促進

- ・ヨーロッパの木製家具・建具市場へ日本企業のアピール
- ・参入するチャンス
- ・ヨーロッパにおける日本のデザイン
- ・海外における家具類の性能規定

参加者数：国内関係者等 36 名

(4) 高性能木材製品の普及ツールの作成

① 「日本木製家具・建具ガイドブック」の作成

日本の木材を用いた木製家具・建具等木材製品の品質、機能性、デザイン性、特徴を EU 等向けに消費者の目線からの確に PR するために、高性能木材製品の普及ツールとして、木製家具・建具関係ガイドブック「JAPAN WOOD BRAND II」(英語版、フランス語版、日本語版、簡体字中国語版、繁体字中国語版、韓国語版)を作成し、配布した。

4 高付加価値木材製品輸出促進事業(うち、企業連携型木材製品輸出促進モデル事業)

付加価値の高い木材製品の輸出拡大及び海外市場向けの国内企業の連携強化を図るため、平成 30 年度林野庁補助事業として、以下の事業活動を実施した。

(1) 企業連携によるモデル的な木材輸出の取組の募集・選定

平成 30 年 4 月 26 日から 5 月 21 日まで公募を行い、21 件の申請があった。

審査選定基準に基づき、「企業連携型木材製品輸出促進モデル選定委員会」の審査を経て、上記 21 件の申請の中から「企業連携型輸出促進モデル事業」として以下の 7 件を採択した。

取組事業名	実施グループ(又は中核企業)
海外向けスギの大径木赤身材と表層圧密製品の販売促進 ・ 輸出向けスギの大径木赤身材と表層圧密家具材の試作 ・ 米中韓への販路開拓、販売促進への取組	ナイス株式会社 他
中国向け木造軸組部材の販売促進 ・ 現地ニーズに適した木造部材の製作 ・ 木造部材の効率的な輸出流通経路の構築 ・ 国産材の軸組躯体を利用した木造現場見学会の開催	ポラテック株式会社 他
海外向けスギ等製材品の販売促進 ・ 米国向けスギ製材品の試作と市場調査	くまもと県産木材輸出促進協議会

・ 中国への販路開拓、販売促進への取組	
台湾向け国産材製品の輸出促進 ・ 現地ニーズを踏まえた製品の実証試験・評価 ・ 台湾向け展示 PR 活動	台湾徳島木材輸出グループ
海外向け製材品の普及 PR と販売促進 ・ 韓国等向け木造部材と軸組工法の普及 PR ・ ベトナム向け販路開拓、販売促進への取組	愛媛県産材製品市場開拓協議会
中国向け内装材等の販路開拓 ・ 現地ニーズを踏まえた住宅部材の試作 ・ 海外販路開拓、販売促進への取組	尾鷲林政推進協議会
東南アジア向け国産材製品の販路開拓 ・ ベトナム・インドネシアの現地ニーズを踏まえた製品の試作 ・ 海外販路開拓、販売促進への取組	豊永林業株式会社 他

(2) 選定したモデル的な取組への支援

採択した前記の7つのモデル事業に対し、以下のとおり各実施グループの実情やレベルに応じた多面的な支援を適切に行い、所期の目標と効果の達成に努めた。

- ・ 活動の履行に対する指導・助言
- ・ 取組の実施に要する経費の助成
- ・ 取組の進捗管理
- ・ 海外の実施先における取組活動の参画
- ・ 国内外における主な実施活動の確認及び成果の検収
- ・ 実施中の問題点や課題の解消に向けたアドバイス
- ・ 実施後のフォローアップ

(3) 成果報告会の開催

「高付加価値木材製品輸出促進セミナー ～企業連携型木材製品輸出促進モデル事業実施結果報告会～」として、下記の成果報告会を開催し、各モデル事業の実施を担う実施グループより実施結果を報告し、本事業の取組成果の共有を図った。

開催日時：平成 31 年 3 月 19 日（火） 13:00～17:20

会 場：東京都内

主要内容：・各取組の報告

- ・各取組の実施概要の報告
- ・事業実施の総括

参加者数：国内関係者等 36 名

5 高付加価値木材製品輸出促進事業（うち、日本産木材・木材製品の普及・PR 事業）

海外市場における付加価値の高い木材製品の輸出促進を図るため、平成 30 年度林野庁補助事業として、以下の事業活動を実施した。

（1）新たな輸出先国の開拓に向けた木材製品の輸出促進活動

① 香港、シンガポール向け木材製品輸出のポテンシャル調査

香港、シンガポールの木材製品貿易・流通企業、販売センター・販売店、内外装現場等に対する現地調査や関係業界団体、流通業者へのヒヤリング調査をそれぞれ実施した。これらの調査により、これまで収集、蓄積した情報を確認するとともに、両国・地域の木材産業の現状、木材の主要用途と主な利用先、流通状況、認証木材に対する認識等を把握・分析した上で、両国における木材製品の輸出ポテンシャルを提示するとともに、輸出に当たっての主な課題を明らかにし、課題解消のための対応策を示唆した。

② 調査報告会の開催・運営

「欧州・アジア向け木材製品輸出促進セミナー」として、前記の 3（1）②の報告会との合同開催を行った。

③ 米国での「日本産木材製品利用促進シンポジウム」の開催・運営

開催日時：平成 31 年 1 月 16 日（水） 13:30～17:00

会 場：World Trade Center Seattle

主要内容：・日本の木造技術

- ・ 日本産スギのツーバイフォー住宅への利用
- ・ 室外高耐久木質材料とその利用事例
- ・ 日本の非住宅向け構造用LVL及び利用事例

参加者数：現地関係者等 45 名

(2) 既存モデル住宅やモデルルーム等を活用した PR 活動等

以下の PR 活動を行った。

- 中国での「日本木材製品利用促進セミナー」の開催(上海)
- 韓国での「日本木材製品利用促進セミナー」の開催(ソウル)
- 中国での「日本木材木造講習会」の開催(北京、江蘇、広州)
- 韓国での「日本木材木造講習会」の開催(ソウル)
- 中国での「モデル住宅・モデルルーム見学会」の開催(上海、広州)

6 農林水産物・食品輸出促進対策事業(うち、品目等のオールジャパンでの輸出促進支援)

農林水産物・食品の輸出総額目標 1 兆円の前倒し達成に寄与する木材輸出の拡大を図るため、平成 30 年度農林水産省補助事業として、以下の事業活動を実施した。

(1) 品目別 PR 等活動支援

① ジャパンパビリオンの出展による PR

以下の 3 展示会に「ジャパンパビリオン」を設置し、国産材輸出に取り組む事業者等と連携して、スギ、ヒノキ、カラマツ等日本産木材を使用した品質・付加価値の高い木材製品、住宅部材等の出展・PR を行った。

- 「2018 第 13 回広州設計週 設計選材博覧会」
- 「第 30 回台北国際建築建材及び産品展」
- 「Delhi Wood 2019」

② 広報媒体等を通じた宣伝

中国、韓国向け、広告・記事の掲載、動画の配信、パンフレットの配布等広報活動を行った。

③ 海外バイヤーの招聘による PR

中国（4名）、韓国（5名）のバイヤーをそれぞれ招聘し、製材品や内装材等製造現場や産地（鹿児島；奈良）への案内、製品の説明、現場視察、業界関係者との意見交換を実施することにより、産地等 PR を行うとともに、バイヤーを講師としたセミナーを開催し、国内企業等への情報提供、販売開拓につながる商機作りやパートナー関係の結成に努めた。

(2) オールジャパンでの販売促進支援

以下の商談会を開催した。

鹿児島での商談会の開催

- 日中木材商談会（鹿児島）：商談組合せ数：27
- 日韓木材商談会（近畿：大阪）：同 25
- 日中木材商談会（上海）：同 48
- 日韓木材商談会（ソウル）：同 18

第2 総務に関する事項

1 理事会について

第1回理事会

開催日：平成30年6月5日

議 事：

- (1) 平成29年度事業報告書について
- (2) 平成29年度決算報告書について
- (3) 定時総会の開催日時、場所、議題等について

報告事項

- (1) 平成30年度事業計画書及び収支予算書について
- (2) 会員の加入状況報告について

第2回理事会(書面審議による理事会)

開催日：平成31年3月29日

議 事：

- (1) 平成31年度事業計画書(案)について
- (2) 平成31年度収支予算書(案)について

2 定時総会について

開催日：平成30年6月25日

議 事：

- (1) 平成29年度事業報告書について
- (2) 平成29年度決算報告書について

報告事項

- (3) 平成30年度事業計画書及び収支予算書について
- (4) 会員の加入状況報告について